



令和5年5月31日
日本下水道事業団

BIM/CIM 活用の重点プロジェクト始動へ

日本下水道事業団（JS）では、これまでBIM/CIM活用に取り組んできた知見を反映させた「下水道BIM/CIM活用方法(第1版)」を作成しました。今後はこれを活用していくことにより、一層のBIM/CIM活用の推進を図っていきます。

まず第1弾として、「瑞穂市公共下水道（瑞穂処理区）アクアパークみずほ整備事業」（令和5年2月に事業者と基本協定締結済）をBIM/CIM活用重点プロジェクトとして実施いたします。

日本下水道事業団（JS）では、「DX推進基本計画」に基づき、令和8年度には、BIM/CIM活用の全面適用を目指します。受託プロジェクトにおけるBIM/CIM活用方法をわかりやすくまとめた「下水道BIM/CIM活用方法(第1版)」(以下、「活用方法」)を作成しました。平成26年度から蓄積してきた知見を基に、JSのみならず委託団体、受注者の3方よしを成り立たせるために、プロジェクト・プロセス間の情報損失を最大限回避し、効率的で質の高いプロジェクトの実現を目指しています。

具体的には、9つの事項からなるBIM/CIMの活用目的等のうち実施する事項を明確に提示し、受注者は実行計画を作成し、JSと事前協議をしながら合意したものを基にBIM/CIM活用を実施することとしています。

「瑞穂市公共下水道（瑞穂処理区）アクアパークみずほ整備事業」では、JSが求めるBIM/CIM活用目的や方法などの要求事項を示した発注者情報要件（EIR）を受注者に提示し、受注者はBIM/CIM実行計画（BEP）を作成し、事前協議を行い、4月に合意に至りました。今後、設計から施工までのプロジェクトの中で目的に応じた3次元モデルや点群データを使用して、各フェーズにおける検討の高度化や後工程や関係者間の必要な情報伝達を図ります。

JSは、この他にも北九州市若松ポンプ場などいくつかの重点プロジェクトを選定し、「活用方法」の評価・検証を繰り返しながら、下水道プラットフォーマーとして、BIM/CIM活用の推進に貢献していきます。

【別紙資料】

「瑞穂市公共下水道アクアパークみずほ整備事業」におけるBIM/CIM活用

<問い合わせ先>

日本下水道事業団

DX戦略部建設DX課長 山本哲雄

TEL：03-6361-7837 E-mail：yamamotot@jswa.go.jp

- これまでのBIM/CIM活用に関する知見を踏まえ、活用方法を「下水道BIM/CIM活用方法(案)」に整理。JS(発注者)として要求する活用方法を明確にした。
- JS初のECI案件である瑞穂市プロジェクトでは、これから着手する設計・施工において、JSが求めるBIM/CIM活用の目的等を明確にし、事業者との合意に基づき、円滑なBIM/CIM活用に取り組む。

※【ECI方式(技術提案・交渉方式)】:設計の段階から施工者が関与する方式。要求水準書において、BIM/CIM活用を求めているが、具体的な実施内容を明記していないため、「下水道BIM/CIM活用方法(案)」に基づき、事前に活用目的や実施方法などを合意するプロセスをとる。

- 「下水道BIM/CIM活用方法(第1版)」要求事項一覧
- 00 合意形成
 - 01 現況把握
 - 02 施設配置検討
 - 03 設備等配置検討
 - 04 施工検討
 - 05 概算数量/金額算定
 - 06 空間調整
 - 07 竣工状況記録
 - 08 デジタルデータ引渡



瑞穂市公共下水道アクアパークみずほ整備事業

下水道BIM/CIM活用(第1版)

